

第63回 石川県理科教育研究大会 輪島・鳳珠・珠洲大会

大会主題「小・中・高をつなぐ理科教育のあり方」

副題 ～ 主体的・対話的に関わり合い、深い学びにつなげる理科学習 ～

大会実行委員長 山野 仁志
(珠洲市立正院小学校 校長)

このたび、第63回石川県理科教育研究大会を、珠洲の地で開催できることは私たち珠洲市の理科教育に携わる者として、大きな喜びであり誇りです。

この石川県理科教育研究大会はこれまで、石川県理科教育研究協議会が主催し、県教育委員会や県科学教育振興会、開催地区の市町教育委員会等の後援と、開催地区の小中高の先生方が連携し、小学校から高等学校までが一堂に会し、授業を公開し学び合うという教育的価値が高い大会であり大きな成果をあげてまいりました。

今大会は10月16日(金)に、大会主題を「小・中・高をつなぐ理科教育のあり方」、副題を「探究の過程を通して、科学的な見方・考え方を働かせる理科学習」と設定し開催します。午前中はこの主題・副題に沿った公開授業を石川県立飯田高等学校、珠洲市立緑丘中学校にて行い、午後からは緑丘中学校にて全体会、記念講演を行う予定となっております。これら公開授業や記念講演等での学びが、ご参加いただく先生方の授業力の向上や理科教育の発展に繋がることを願っております。

また、今回の記念講演では、北海道大学名誉教授 鈴木 誠氏をお迎えいたします。鈴木先生には、「個別最適な学び」には何が必要か ―珠洲市の子供たちを「評価」する新たな視点―と題してご講演いただきます。これからの理科教育をすすめる上で、子どもたちのよりよい「評価」とは何かついて考える貴重な時間になると考えております。

今年度の珠洲市学教研理科教育研究部会の1回目の会合で、皆さんと確認したことは、『あの発災から2年3か月。今回の大会をこの珠洲の地で開催できることは、珠洲の理科教育を生で発信する大きなチャンスです。今の状況の中、珠洲で学ぶことを選択した児童生徒が、たとえ少人数でも、こんなに生き生きと充実した学びをすすめているんだ！と思ってもらえる・感じてもらう大会にしましょう！』です。交通事情は随分良くなったとはいえ、遠方より珠洲までおいでになるにはまだまだ時間がかかる状況は変わりません。それでも、この機会に奥能登に・珠洲に多くの皆様方に足を運んでいただいて、発災後2年9か月後の奥能登の・珠洲の復旧・復興の様子を肌で感じていただきたいと思います。また少数のスタッフでの運営ですので、不手際も多々あるかと思いますが、よりよい大会にしたいと準備をすすめております。ぜひたくさんの皆様のご参加をどうぞよろしくお願いいたします。